

「戦争放棄」を掲げ続けねば

看護助手

(徳島県 39)

私はこれまでに、現在は高年齢となった戦争体験者に多く接してきた。あるお年寄り「戦争中、一番怖かったのは憲兵さん。みんな怖がっていた」とおっしゃっていた。また、軍隊で上官からいじめを受けた話、入隊の前には全裸にさせられて屈辱だったとの話など、色々な人から聞かされてきた。

憲法9条の戦争放棄・平和主義を「終戦直後の過度な厭戦感情が生んだもので現実離れしている」と論ずる人々もいるようだ。そういう人々の方が現実を直視

できていないと感じる。現在、戦争を招きかねない不安要素はたくさんある。憲法解釈を変えてしまう政権に対してさえ「まあ大丈夫だろう」と楽観する国民の過信。加えて戦争体験の継承不足。戦争への危機感の無さ。ほんの70年前まで市民は一兵卒となって虐げられていたという想像力・共感の欠落。

この70年間の平和は、9条と戦後の市民が武力に頼らず培ってきたものだ。安倍政権が安全保障法制を成立させる際に言っていた「積極的平和主義」とはまったく別物であると強く訴えたい。